

○東京婦人矯風會大會演說錄
井深梶之助君演說(其教育と婦人の地位) 筆記(三)

現今我邦の結婚と離縁との比例の如何程であるか、只今暗記致しませんが、恐らく結婚が百あれば離縁が二十或は三十位ある比例のありませぬか。よしや百に十の比例としても、實に驚くべく憂ふべきこと、申さねばありません(喝采)。斯様に、輕しく妻を出す風が行はれ居る中、婦人が正當の地位を占め、眞正の幸福を得るなど云ふこと、いふもひも寄らぬこと、御座ります。全體日本にドウして此のようか、惡風が始つたことであるか、考るに、其れには種々原因のあることに、相違御座ります。其れが儒者の七去の教も、其一大原因である、と申さねば

かりません(喝采)而して佛法や神道に如此き事にノドチミチ
 更に頓着せぬ者の様に見ます。兎に角に是より此惡習を洗滌
 するには矢張りキリスト教の力を借なければなりません(喝采)
 第三には男女同等の教で御座ります。前の辨士も述べられた通
 我邦に於ては儒道佛道の行はれた結果として昔より男を尊び
 女を卑む風が御座りますがキリスト教は之に反して神の前に
 於て男女とも全く同等のものであると教へます。しかし此は
 日本ばかりで御座りません。キリスト教の行はれぬ國でい
 何處でも男尊女卑の風習の行はれぬ所御座りません。印度
 や土耳其の婦人の事などを聞けば實に惘然に堪ぬ事其が多く
 御座ります。幸に我國に其程のことありませんが矢張り
 男尊女卑の風は免れません。然して此不適合を直すのも亦キ
 リスト教で御座ります。何となればキリスト教に於ては女を
 男よりも卑い者ともせず尊い者ともせず全く同等者として致し
 ます。若し女が神の前に於て罪人であるならば男も矢張り罪人
 であるし若し男が神の恩恵を蒙るべきものならば女も同様に
 神の恩恵を蒙るべきものと致します。故に新約書にもキリス
 トを信する者の中に在ては「或は奴隸或は自主或は男或は女
 の別なきはみなキリストに在て一休さればなりと御座りま

す(加拉四ノ廿八)元よりキリスト教に於ても男と女は天然其
 性を異にするものゆゑ隨て其事業も責任も違ふこと教へま
 そが其品位に至ては更に高下の別なきことを教へます(喝采)
 其他に尙例を擧ればキリスト教に於ては女子の教育を勤ると
 や又婦人が社會のために働くことを勵すこと婦人特有の溫柔
 遜讓の徳を貴ふこと其他にも又キリスト教が婦人の地位を高
 くし且之に眞正の幸福を與へる理由の種々御座りますが細い
 ことゝ舉んでも以上三つの教即ち一夫一婦の教、聖結婚の教、
 男女同等の教ばかりでもキリスト教の社會改良の事に於ては
 非常の勢力ある者で殊に婦人の良友たること明白で御座り
 ませう(喝采)

今より大凡一千八百八十年前、處女マリヤが救世主の母とさ
 つたことを知つた時に神を讚美して「我心主を崇め我靈の我
 救主なる神を喜ぶ是れ其使女の卑賤をも眷顧たまふが故なり
 今より後萬世まで人を我を福するものと稱ふべし」と謳まし
 たが思ふに此のマリヤが我知らず世界萬國の婦人の代表者ど
 して數千年來種々の壓制束縛を受た婦人が是より永く眞正の
 幸福を受ける時が來たことを神に感謝した凱歌で御座ります。
 (喝采)然らば是より我邦にもキリスト教が漸々行れんとする

勝に於て日本の婦人方もマリアと、もに我心主を崇め我靈我
 救主なる神を喜ぶ、今より後萬世まで人々我を福する者と稱
 ふべし」と此凱歌を唱へつゝ神のため國のために御盡力ある
 べきことと存じます。私か婦人矯風會の會員方に望む所も即ち
 是にて御座ます。(喝采)(畢)(林茂淳筆記)